

生 命 環 境 科 学 研 究 科

生命科学を基盤に食保健学、農学、分子化学などとの統合から生まれた応用生命科学専攻、及び、人をとりまく住環境から自然環境までを連続した視点で見つめる環境科学専攻において、研究能力や高度な専門性を求められる職業を担うための卓越した能力（博士前期課程）、あるいは、研究者として自立して研究活動を行うための高度な研究能力（博士後期課程）を身につけ、社会に貢献したいという積極的な学生を募集します。

なお、本研究科では、所定の要件を満たせば社会人であっても修士あるいは博士の学位を取得することができます。

1 募集人員

生命環境科学研究科に出願を希望する人は、必ず、あらかじめ希望する専門種目の教員と相談してください。

夏期実施分

専攻名	博士前期課程	博士後期課程
応用生命科学専攻	50名	
環境科学専攻	35名	5名

いずれの専攻も社会人入学を含みます。

冬期実施分

専攻名	博士前期課程	博士後期課程
応用生命科学専攻	若干名	10名
環境科学専攻	若干名	若干名

いずれの専攻も社会人入学を含みます。

応用生命科学専攻博士後期課程以外の冬期実施分(第2次募集)は実施しないことがあります。

実施の有無、募集する専攻・課程等は、11月上旬に決定しますので学務課入試係までお問い合わせください。

2 出願資格

博士前期課程

次のいずれかに該当する者とします。

- (1) 大学を卒業した者又は令和7年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者又は令和7年3月31日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者又は令和7年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が別に定める日以後に修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 外国において学校教育における15年の課程を修了し、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本学大学院において認めた者
- (7) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者又は令和7年3月31日までに22歳に達する者

※ 社会人受験の出願資格は、上記(1)～(7)のいずれかに該当し、かつ、企業、国、地方公共団体、学校法人等に勤務している者又はこれに相当すると本学大学院において認められた者（以下「社会人受験志願者」という。）とします。ただし、入学手続時には、その身分を有したまま大学院生となることを所属長から許可されていること、又はこれに相当すると本学大学院において認められることが必要です。出願を希望する者は、あらかじめ志望する専門種目の担当教員の了解を得てください。

博士後期課程

次のいずれかに該当する者とします。

- (1) 修士の学位を授与された者又は大学院修士課程を令和7年3月31日までに修了見込みの者
- (2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (3) 文部科学大臣の指定した者
- (4) 外国において学校教育における17年の課程を修了し、所定の単位を優秀な成績をもって修得したものと本学大学院において認めた者
- (5) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認め

た者で、24歳に達した者又は令和7年3月31日までに24歳に達する者
 ※ 社会人受験の出願資格は、上記(1)～(5)のいずれかに該当し、かつ、企業、国、地方公共団体、学校法人等に勤務している者又はこれに相当すると本学大学院において認められた者としてします。出願を希望する者は、あらかじめ志望する専門種目の担当教員の了解を得てください。

(注) 外国人留学生で入学を志望する者は、あらかじめ当該研究科の了承を得ることが必要です。詳細は、「2025年度外国人留学生入学案内(大学院)」を参照してください。

3 出願資格における個別の入学資格審査について

博士前期課程の出願資格(7)及び博士後期課程の出願資格(5)に該当する志願者は、出願の前に本学大学院において入学資格認定のための個別の入学資格審査を行います。

なお、審査の申請手続は次のとおりですが、申請には本学所定の用紙等が必要です。所定の用紙を本学ホームページに掲載していますのでダウンロードして使用してください。なお、郵送も可能ですので学務課入試係(電話 075-703-5144)にお問い合わせください。

(1) 申請書類

資格審査申請書、履歴書、研究計画書、活動自己申告書(博士後期課程の場合)、最終学歴の学校長が発行する卒業・修了証明書及び成績証明書

(2) 申請方法

審査を受けようとする者は、申請書類を取りそろえて、下記により提出してください。

ア 申請期間

夏期実施分

令和6年5月23日(木)～令和6年5月30日(木)(受付は午前9時から午後5時まで。ただし、土曜日・日曜日・祝日は除きます。)

冬期実施分

令和6年10月23日(水)～令和6年10月30日(水)(受付は午前9時から午後5時まで。ただし、土曜日・日曜日・祝日は除きます。)

イ 申請書類の提出先

京都府立大学学生部学務課入試係

(3) 審査方法等

審査は、提出書類による書類審査とします。なお、審査結果は出願開始期日までに申請者あて書面で通知します。

4 身体等に障害のある入学志願者との事前相談

(1) 事前相談等

入学を志願する者で、身体等に障害(学校教育法施行令第22条の3に定める程度、その他これに準じるもの)があり、受験及び修学上特別の配慮を必要とする場合は、あらかじめ本学へ連絡し相談してください。

(2) 相談の時期
 夏期実施分 令和6年 5月23日(木)～令和6年 5月30日(木)
 冬期実施分 令和6年10月23日(水)～令和6年10月30日(水)

5 願書受付期間

夏期実施分

(1) 令和6年7月1日(月)から7月8日(月)まで(ただし、土曜日・日曜日・祝日は除きます。)

(2) 受付時間は午前9時から午後5時までとします。

(3) 郵送の場合は7月8日(月)午後5時までに到着したものとします。

ただし、期間後到着した場合は、7月7日(日)以前の消印のある書留速達郵便に限り受け付けます。

冬期実施分

(1) 令和7年1月6日(月)から1月14日(火)まで(ただし、土曜日・日曜日・祝日は除きます。)

(2) 受付時間は午前9時から午後5時までとします。

(3) 郵送の場合は1月14日(火)午後5時までに到着したものとします。

ただし、期間後到着した場合は、1月13日(月)以前の消印のある書留速達郵便に限り受け付けます。

6 願書提出先

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5 京都府立大学学生部学務課入試係
 電話 (075) 703-5144 (直通)

7 出願手続

出願を希望する方は、あらかじめ希望する専門種目の教員と相談してください。

入学志願者は次の書類を取りそろえ、願書受付期間内に到着するよう入試係に提出してください。

必要書類	注意事項等
(1) 入学願書等 (裏面の履歴も記入のこと)	本学所定の用紙(受験票含む)に必要事項を記入の上、出願前3か月以内に撮影した写真(単身、脱帽、上半身、正面向きのもの、横3cm×縦4cm)2枚を願書の所定の位置に貼り付けてください。
(2)卒業(見込)証明書 [博士後期課程は、修了(見込)証明書]	「2 出願資格」を証明するもの
(3)成績証明書	出身大学長又は学部長が作成したもの
(4)志望理由書	博士前期課程 志望理由書(A4用紙1枚片面使用、1,200字程度)を1部提出してください。
(5)TOEIC公式認定書	入学試験日の前月末までの2年間に実施されたTOEIC公開テストの公式認定書(原本を提出すること。提出された認定書は返却しません。) 応用生命科学専攻 博士前期課程:志願者全員(社会人受験志願者を含む)が提出すること。 博士後期課程:他大学大学院からの志願者で、栄養科学、食品科学、食環境安全学、食事科学、健康科学、分子栄養学、動物機能学、動物衛生学の専門種目を志望する者は提出すること 環境科学専攻 博士前期課程:志願者全員が提出すること(生活環境科学及び森林科学出題分野の社会人受験志願者は不要)。 博士後期課程:不要 * 試験日までにTOEIC公式認定書を取得する見込みの者で、願書受付期間内に準備できない場合に限り、学力試験(筆記試験または口述試験)時に公式認定書を提出することができる。該当者は、TOEIC Listening & Reading 公開テストを受験したことを示すもの(受験票の写し等)を提出すること。なお、願書提出時に提出した認定書を差し替えたい者は、学力試験時にその旨を申し出て、新たな認定書を提出することができる。
(6)研究内容の概要及び研究計画書	博士後期課程 これまでに行った研究内容の概要及び研究計画書(それぞれA4用紙で3,000字程度にまとめたもの)を各1部提出してください。
(7)入学考査料	30,000円 (1) 本学所定の「入学考査料振込依頼書」により、銀行または信用金庫等の金融機関から振り込んでください。(A票への金融機関押印により入金を確認します。) ① 京都銀行から振り込む場合、手数料無料 ② その他の金融機関から振り込む場合、所定の手数料が必要 ただし、ゆうちょ銀行(郵便局)からの振り込みはできません。 (2) 金融機関から振り込めない場合は、ゆうちょ銀行(郵便局)の普通為替証書を同封してください。(普通為替証書発行には料金550円が必要です。) 普通為替証書の受取人欄等については、記入しないでください。 * 博士後期課程を受験する者のうち、令和7年3月本学大学院生命環境科学研究科博士前期課程修了見込みの者は不要です。
(8)返信用封筒 (受験票送付用)	本学所定の封筒に郵便番号、住所、氏名を記載し、郵便切手(*434円)を貼ってください。 * 定形郵便物(25gまで)料金に簡易書留料金を加えた料金 料金が改定された場合は、改定後の料金で準備してください。
(9)連絡用宛名シール	本学所定の用紙に記入してください。
(10)研究業績又は業務報告	社会人受験の志願者のみ提出してください。 これまでに行った研究、特許、実務経験などを記載したもの(A4用紙使用、形式は自由)を各1部提出してください。

○ 注意事項

- ① 入学願書等の請求、提出、照会はすべて入試係あてとし、郵便で入学願書等を請求するときは、請求用

の封筒には「大学院入学願書請求」と朱書して、返信用にあて先を明記し郵便切手(※250円)を貼った封筒角形2号(33.2cm×24.0cm)を同封してください。また、入学願書等の提出は所定の封筒を使用し、郵送される場合は必ず「書留速達」郵便としてください。

※定形外郵便物(250gまで)料金。料金が改定された場合は、改定後の料金で準備してください。

- ② 入学願書受付後は、願書記載事項の変更は認めません。また、提出書類及び入学考査料は返しません。ただし、入学考査料を誤って二重に払い込んだ場合及び入学考査料を払い込んだが出願書類を提出しなかった場合(出願が不備等により受理されなかった場合を含む)は、30,000円をお返ししますので、本学学務課入試係にお問い合わせください。
- ③ 博士前期課程の合格者のうち、現在、企業等に勤務している者は、入学手続時に学業専念承諾書(本学所定の様式を使用し、勤務先の長の学業専念を承諾する旨の証明を受けたもの)を提出していただきます(「12 社会人入学の授業科目の履修及び研究に専念する期間」を参照)。
- ④ 企業等への勤務が内定している者は、入学手続時に学業承諾書(本学所定の様式を使用し、勤務内定先が承諾する旨の証明を受けたもの)を提出していただきます。

8 専門種目の志望及び入学者選考方法

本学研究科が指定する選抜方法の科目(小論文、面接を含む)を1科目でも受験していない場合、失格となります。

志望する専門分野の選択に際して、応用生命科学専攻の生命物質科学出題分野、環境科学専攻の森林科学及び生活環境科学出題分野の場合は、志望する専門種目・専門分野(注)を選択してください。それ以外の出題分野では、志望する専門種目を選択してください。

博士前期課程においては、第1志望と同一の出題分野内であれば、いずれの専門種目又は専門分野も第2志望として選択できます(ただし応用生命科学専攻の植物生産テクノサイエンス学出題分野は第1志望に限ります)。なお第2志望を選択する場合は、第1志望に加えて第2志望の専門種目(生命物質科学、森林科学および生活環境科学出題分野にあっては専門分野)の教員との事前の面談も必要です。

博士後期課程にあっては、第1志望に限ります。

(注) 生命物質科学、森林科学及び生活環境科学の教員名と専門分野名は、表3に示すとおりです。

博士前期課程

(1) 選抜は、学力試験(筆記試験)、志望理由書、面接・口述試験、出身大学の成績及びTOEICのスコアを総合して行います。

(2) 応用生命科学専攻の学力試験(筆記試験)は、出題分野ごとに表1に記載する出題科目について行います。

* 社会人受験志願者の場合は筆記試験を免除し、志望理由書等の提出書類と専門種目に係る口述試験の結果及びTOEICのスコアを総合して合否を判定します。

(3) 環境科学専攻の学力試験(筆記試験)は、出題分野ごとに表2に記載する出題科目について行います。

* 社会人受験志願者の場合は筆記試験を課しませんが、志望理由書等の提出書類(数物・情報環境学出題分野を受験する場合のみ、TOEICの公式認定書を含む)と専門種目に係る口述試験の結果を総合して合否を判定します。

博士後期課程

選抜は、面接・口述試験、研究内容の概要、研究計画書及び博士前期課程(修士課程)の学業成績等により総合的に行います。口述試験の面接では、パソコンによるプレゼンテーションを行っていただきます。なお、他大学大学院からの志願者で、応用生命科学専攻の専門種目の栄養科学、食品科学、食環境安全性学、食事科学、健康科学、分子栄養学、動物機能学、動物衛生学を志望する場合は、面接・口述試験及びTOEICのスコアを総合して選抜を行います。

* 面接・口述試験の日時及び詳細は、願書受付後、お知らせします。

【表 1】 応用生命科学専攻の出題科目

専攻	専門種目	出題分野	出題科目
応用生命科学専攻	植物育種学	植物生産テクノロジーサイエンス学	志望する専門種目に対応する科目と共通科目の生物学。なお、生物学の出題範囲は、大学の教養教育課程で履修する程度とする。
	野菜花卉園芸学		
	果樹園芸学		
	細胞工学		
	農業生態学		
	農業経営学		
	応用昆虫学		
	昆虫情報学		
	土壌学		
	栄養科学	食保健学	<p><夏期実施分> 食保健学出題分野の5専門種目と動物機能科学出題分野の3専門種目の合計8専門種目から、志望する専門種目に対応する科目を含め3科目を選択する。</p> <p><冬期実施分> 食保健学出題分野の5専門種目から、志望する専門種目に対応する科目を含め3科目を選択する。</p>
	食品科学		
	食環境安全性学		
	食事科学		
	健康科学		
	分子栄養学	動物機能科学	<p><夏期実施分> 食保健学出題分野の5専門種目と動物機能科学出題分野の3専門種目の合計8専門種目から、志望する専門種目に対応する科目を含め3科目を選択する。</p> <p><冬期実施分> 動物機能科学出題分野の3専門種目から、1つの科目を選択し、受験出願時に申請すること。ただし、受験科目は志望する専門種目に関係なく、3科目の中から自由に選択できる。</p>
	動物機能学		
	動物衛生学		
	遺伝子工学	植物分子生物学	<p><夏期実施分> 科目群の基礎となる必須問題を1題出題し、全員が解答する。これに加えて遺伝子工学、植物病理学、植物分子生物学、植物ゲノム情報学、植物成分化学の5科目から1題ずつ合計5題の選択問題を出題する。この5題から1題を選択し解答する。なお、出題範囲は大学の理科系学部の概ね1～3学年で履修する内容とする。</p> <p><冬期実施分> 遺伝子工学、植物病理学、植物分子生物学、植物ゲノム情報学、植物成分化学の5科目の中から、1科目を受験科目として選択し、受験出願時に申請すること。ただし、受験科目は、志望する専門種目に関係なく、上記5科目の中から自由に選択できる。</p>
	植物病理学		
	植物分子生物学		
植物ゲノム情報学			
植物成分化学			
微生物機能化学	生命物質科学	<p><夏期実施分> 次の4科目（物理化学、有機化学、無機・分析化学、生化学・細胞生物学）から各3題の合計12題を出題する。この12題の中から4題を、志望する専門種目に関係なく選択し解答すること。なお、出題範囲は大学の理科系学部の概ね1～3学年で履修する内容とする。</p> <p><冬期実施分> 次の専門分野から、受験科目に応じて出題する。専門分野は、「微生物機能化学、無機材料化学、機能分子合成化学、超分子合成化学、生体分子建築化学、生命構造化学、高次細胞機能化学、医薬分子構築化学、光機能物質化学、生命物理化学、機能分子解析化学、計算化学」の12科目</p>	
物質創成化学			

専攻	専門種目	出題分野	出題科目
応用生命科学専攻	機能創成化学	生命物質科学	<p>である。この12科目の中から1科目を受験科目として選択し、受験出願時に申請すること。</p> <p>ただし、受験科目は、志望する専門種目に関係なく上記12科目の中から1科目を自由に選択することができる。いずれの科目も、その科目に関する基礎分野の内容を含むものとする。教員名と専門分野名は表3に示すとおりです。</p>
	システム創成化学		

【表2】環境科学専攻の出題科目

専攻	専門種目	出題分野	出題科目
環境科学専攻	森林生態学	森林科学	<p>専門基礎科目 2 問、専門科目 1 問の 3 問を解答すること。</p> <p>【専門基礎科目】</p> <p>1 自然科学に関する基礎的な英語 1 問</p> <p>2 森林科学に関する基礎的な問題 1 問</p> <p>上記 2 については、左の 3 専門種目から 2 問ずつ出題する合計 6 問のうち、志望する専門種目以外の 4 問から 1 問を選択。ただし、第 2 志望の専門種目が第 1 志望の専門種目と異なる場合は、第 2 志望の専門種目を選択すること。</p> <p>【専門科目】</p> <p>志望する専門分野（担当教員および主な研究テーマは表 3 を参照）の問題を選択</p> <p>森林生態学専門種目</p> <p>専門分野：森林生態学（出題範囲：森林生態学）</p> <p>森林生理生態学（出題範囲：森林生理生態学、森林保護学）</p> <p>森林植生学（出題範囲：森林植生学、森林植物学）</p> <p>森林資源循環学（出題範囲：森林資源循環学、物質循環学）</p> <p>流域保全学専門種目</p> <p>専門分野：森林計画学（出題範囲：森林計画学、森林計測学）</p> <p>流域情報学（出題範囲：流域情報学）</p> <p>山地防災学（出題範囲：山地防災学、森林水文学）</p> <p>砂防学（出題範囲：砂防学、渓流水理学）</p> <p>森林資源学専門種目</p> <p>専門分野：生物材料物性学（出題範囲：木材物理学、木材組織学）</p> <p>木質生化学（出題範囲：木質資源利用化学）</p> <p>生物材料利用化学（出題範囲：生物材料利用化学）</p>
	流域保全学		
	森林資源学		
	住環境文化学		
	住環境計画学		
	住環境機構学		
	環境応用情報学	数物・情報環境学	<p>【夏期】 下記 3 専門種目の計 6 問から 3 問を解答すること。ただし、第 1 志望の専門種目の問題を 1 問以上解答すること。第 2 志望の専門種目がある場合は、第 2 志望の専門種目の問題も 1 問以上解答すること。</p> <p>【冬期】 第 1 志望の専門種目の問題を 2 問解答すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境応用情報学：情報処理論・計算機科学（計 2 問） 環境応用数理学：応用数学（計 2 問） 環境計測学：物理学（計 2 問）
	環境応用数理学		
	環境計測学		

【表3】 応用生命科学専攻 生命物質科学、環境科学専攻 森林科学及び生活環境科学の教員名と専門分野

専攻	出題分野	専門種目	教員名	専門分野	主な研究テーマ		
応用生命科学専攻	生命物質科学	微生物機能化学	辻本 善之	微生物機能化学	自然界からの有用微生物の探索およびその解析と応用、醸造微生物の機能解析		
		物質創成化学	斧田 宏明	無機材料化学	多様な無機化合物の反応を活用した、環境負荷が小さく、生体にやさしい無機材料の作製		
			椿 一典 今吉亜由美	機能分子合成化学	精密有機合成化学を基本に据え、分子認識化学・構造有機化学・分子機能化学へ研究を展開し、高機能性材料や診断試薬、医薬品を創成		
			沼田 宗典	超分子合成化学	機能性分子の合成と分子集積化学を基盤として、新たな高機能物質を創りだし、機能材料・生体適合材料へと応用する研究を展開		
		機能創成化学	安部 聡	生体分子建築化学	タンパク質などの生体分子の集積化反応を利用したバイオ機能材料の設計・構築・機構解明に関する研究		
			高野 和文 田中 俊一	生命構造化学	タンパク質の形作りに着目した生命現象の解明と天然の機能を超越する人工タンパク質の設計と応用		
			佐野 智	高次細胞機能化学	細胞内のタンパク質の生体機能と細胞レベルでの生物応答の制御機構に関する研究		
		システム創成化学	杉本 健士	医薬分子構築化学	生物活性物質・医薬品などの複雑な三次元構造をもつ生体制御分子の精密構築法の開拓と、それに利用可能な効率的有機分子変換反応の開発を展開		
			堀内 宏明	光機能物質化学	光化学・物理化学に基づく、光ガン治療に用いる光感受性薬剤の高機能化・多機能化の研究		
			織田 昌幸	生命物理化学	抗体や酵素などタンパク質の動的構造と機能との相関解明		
			久保 拓也	機能分子解析化学	有機無機複合型の新規材料の合成と固液界面における原子、分子間相互作用に基づく革新的な分離技術に関する基礎研究と医薬品/環境計測への応用		
			リントウル オト 正美	計算化学	量子化学、分子動力学計算を用いた酵素反応機構やタンパク質の機能と構造の関連性の解明		
		環境科学専攻	森林科学	森林生態学	隅田 明洋*	森林生態学	森林の発達・維持のメカニズムに関する生態学的研究
					上田 正文	森林生理生態学	樹木の生態・健康度および水分生理に関する研究
					平山貴美子 佐々木尚子	森林植生学	森林動態、生物間相互作用、人と自然の相互関係史、植生変遷等に関する研究
					宮藤 久士 糟谷 信彦	森林資源循環学	森林の物質循環、エネルギー循環、資源の循環的利用に関する研究
流域保全学	長島 啓子 中田 康隆			森林計画学	森林およびその資源の調査、解析、予測、計画、管理、評価に関する研究		
	美濃羽 靖			流域情報学	流域環境（気象，水，土砂，河川，湖沼など）の調査・実験・解析、流域と社会・経済との相互作用等に関する研究		
	勝山 正則			山地防災学	森林流域における水循環・水質形成機構、気候変動に対する森林流域の長期水応答の変化に関する研究		
	三好 岩生 高濱淳一郎			砂防学	山地流域からの水・土砂流出、土砂災害の発生機構、荒廃山地の緑化・森林保全、地域防災システムに関する研究		
森林資源学	古田 裕三 神代 圭輔			生物材料物性学	木材や竹材等の生物材料とこれら生物材料を用いた木質系材料の組織構造、物性に関する研究		
	辻山 彰一			木質生化学	きのこ及びその酵素に関する応用研究、木質成分利用に関する研究		
	細谷 隆史			生物材料利用化学	木材およびその構成成分の化学分解法とその分子機構に関する研究		

※ 2025年（令和7年）3月退職予定

専攻	出題分野	専門種目	教員名	専門分野	主な研究テーマ
環境科学専攻	生活環境科学	住環境文化学	辻 慎一郎	住居建築史学	住居建築史学に関する研究
			関口 達也	都市計画学	都市計画、都市現象、都市政策に関する研究
			檜谷美恵子※	住生活学	住様式・居住問題・居住政策に関する研究
			山川 肇	環境配慮型生活学	環境配慮型生活の促進・循環型社会の形成に関する研究
			松田 法子	生活文化学	都市・地域・建築に関する生活文化論的・史的・美的研究
		住環境計画学	河西 立雄※	建築意匠学	建築・都市・インテリアの空間デザインに関する研究
			河合 慎介	建築計画学	使われ方による平面型の評価・医療施設の計画に関する研究
			鈴木 健二	居住福祉計画学	高齢者を中心とした居住施設・福祉施設の計画に関する研究
			奥矢 恵	インテリア意匠学	建築・インテリア空間の意匠に表れる地域性や時間性に関する研究
			森田 一弥	インテリア計画学	空間のデザイン手法に関する研究
		住環境機構学	長野 和雄	建築都市環境学	生気候学・生活環境及び設備計画学・人体熱収支に関する研究
			石川 敦雄	視環境計画学	建築・都市の視環境及び環境心理学に関する研究
			田淵 敦士	木質構造学	伝統木造建築の耐震性能評価や保存技術に関する研究
			荒木 裕子	住環境防災学	住環境防災学に関する研究
			福井 亘	ランドスケープ学	ランドスケープ及び景観生態に関する研究

※ 2025 年（令和 7 年）3 月退職予定

【表4】環境科学専攻 生活環境科学出題分野の専門科目の指定参考書及び出題範囲

<p>【住環境文化学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画学（『都市計画 第4版』、川上光彦、第10章・第12章を除く、森北出版、2021） ・住生活学（『21世紀のハウジング<居住政策>の構図』、住田昌二、ドメス出版、2007） ・環境配慮型生活学（『3R・低炭素社会検定公式テキスト[第3版]』、3R・低炭素社会検定実行委員会編、ミネルヴァ書房、2020） ・生活文化学（『日本都市史・建築史事典』、都市史学会編、P.4～7、42～45、94～97、104～129、184～188、194～211、272～285、294～303、326～327、丸善出版、2018） ・住居建築史学（『カラー版 建築と都市の歴史』、光井渉・太記祐一編著、I日本建築史、井上書院、2013、および『日本建築史図集 新訂第三版』、日本建築学会編、図版ページ、彰国社、2011） <p>【住環境計画学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築意匠学（『近代建築史』、石田潤一郎・中川理編、昭和堂、1998） ・建築計画学（『設計力を育てる建築計画100選』、今井正次他、第2章から第3章、共立出版、2015） ・居住福祉計画学（『住むための建築計画』、佐々木誠他、第3章から第8章、彰国社、2013） ・インテリア意匠学（『日本の建築意匠』、平尾和洋・青柳憲昌・山本直彦編著、第4章を除く、学芸出版社、2016） ・インテリア計画学（『テキスト建築意匠』、平尾和洋・末包伸吾編著、学芸出版社、2006） <p>【住環境機構学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築都市環境学（『図説 建築環境』、松原斎樹・長野和雄編著、学芸出版社、2017、および『図説 建築設備』、村川三郎監修／芳村恵司・宇野朋子編著、学芸出版社、2016） ・視環境計画学（『図説 建築環境』、松原斎樹・長野和雄編著、第3章、学芸出版社、2017、および『生活の色彩学』、橋本令子・石原久代編著、第2章から第7章、朝倉書店、2019） ・木質構造学（『新・建築材料I<第2版>[構造材料編]』、田上享二他、第2章、数理工学社、2021、および『建築構造力学講義（改訂版）』、藤谷義信他、第1章から第4章、培風館、2005） ・ランドスケープ学（『造園の手引き』、京都府造園協同組合、誠文堂新光社、2016） ・住環境防災学（『改訂版 都市防災学：地震対策の理論と実践』、梶秀樹・塚越功編著、学芸出版社、2012） 	
---	--

（注）頁及び章等の記載のないものについては、全章が範囲となります。

9 学力試験等の日時及び試験場

(1) 日 時

**夏期実施分
博士前期課程**

月 日	専 攻	科 目	時 間
令和6年8月6日（火）	応用生命科学専攻	専 門 科 目	10時00分～12時00分
		面接・口述試験	13時00分～
	環 境 科 学 専 攻	専 門 科 目	10時00分～12時00分
		面接・口述試験	13時00分～

※願書提出時にTOEIC公式認定書を提出しなかった者、および願書提出時に提出したTOEIC公式認定書を差し替えたい者は、専門科目試験時にTOEIC公式認定書を提出してください。

博士後期課程

月 日	専 攻	科 目	時 間
令和6年8月6日（火）	環 境 科 学 専 攻	面接・口述試験	11時00分～
令和6年8月7日（水）			10時00分～

面接・口述試験の日は願書受付後、お知らせします。

**冬期実施分
博士前期課程**

月 日	専 攻	科 目	時 間
令和7年2月8日（土）	応用生命科学専攻	専 門 科 目	10時00分～12時00分
		面接・口述試験	13時00分～
	環 境 科 学 専 攻	専 門 科 目	10時00分～12時00分
		面接・口述試験	13時00分～

※願書提出時にTOEIC公式認定書を提出しなかった者、および願書提出時に提出したTOEIC公式認定書を差し替えたい者は、専門科目試験時にTOEIC公式認定書を提出してください。

博士後期課程

月 日	専 攻	科 目	時 間
令和7年2月8日(土)	応用生命科学専攻	面接・口述試験	13時00分～
令和7年2月8日(土)	環 境 科 学 専 攻	面接・口述試験	11時00分～
令和7年2月9日(日)			10時00分～

応用生命科学専攻の面接・口述試験の時間及び環境科学専攻の面接・口述試験の日は願書受付後、お知らせします。

(2) 試験場 京都府立大学

(3) 学力試験等受験についての注意事項

- ア 試験当日は、指示された時間の30分前までに試験場に集合してください。
- イ 試験時間中に机上に置けるものは、「受験票」「黒の鉛筆又はシャープペンシル（筆記機能のみ）」
「鉛筆削り（電動式を除く）」「消しゴム」「鉛筆キャップ」「時計（辞書、電卓、端末等の機能のあるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの・秒針音のするもの・大型のものは不可）」
「眼鏡」「ハンカチ」「ティッシュペーパー（袋又は箱から取り出したもの）」「目薬」です。健康上その他やむを得ない理由により、上記以外のものを使用したい場合は、監督者の指示に従ってください。
- ウ 志願者に対し宿泊施設の斡旋等はありません。

10 合格発表

夏期実施分

博士前期課程・博士後期課程

令和6年8月16日（金）正午に合格者の受験番号を本学ホームページ(<https://www.kpu.ac.jp/>)に掲載します。

冬期実施分

博士前期課程・博士後期課程

令和7年2月17日（月）正午に合格者の受験番号を本学ホームページ(<https://www.kpu.ac.jp/>)に掲載します。

また、合格者には、後日、合格通知等を郵送します。
なお、電話その他による問い合わせには応じられません。

11 入学資格の確認

合格後、入学資格を確認するために、卒業又は修了後、速やかに卒業証明書又は修了証明書を提出していただく必要があります。

なお、既卒者については、提出は不要です。

また、本学卒業見込者又は本学大学院博士前期課程修了見込者についても、その情報を本学で確認しますので、提出は不要です。

12 社会人入学の授業科目の履修及び研究に専念する期間

博士前期課程については、1年以上本務を離れて本研究科での授業科目の履修及び研究に専念する必要があります。ただし、本研究科がこれに準ずると認めた場合は、本研究科の授業科目の履修及び研究に専念する他の形態を認めることがあります。なお、長期履修制度を利用する場合は、学業専念承諾書の提出に準ずる他の形式を認めることがあります。

博士後期課程については、特に専念期間を設けていません。

生命環境科学研究科概要

[応用生命科学専攻]

応用生命科学専攻は、微生物、植物、動物からヒトまでを対象にして、人類が直面しているさまざまな生命科学の課題を、食の機能性・安全性を高める食科学、その基礎となる食料生産の科学、動植物や微生物の機能を解明し応用するテクノロジー、さらに生命や環境に関わる物質をミクロのレベルで扱う生命物質科学など広範な科学領域の知識と技術を駆使して研究し、人類福祉の向上と地球環境の保全のための新技術の開発をめざします。そして、これらの分野で指導的役割を担うことのできるエキスパートを育成します。

研究室の教員と研究内容

専門種目と教員氏名(※)	教育研究概要(●以下は主要な研究テーマ)
植物育種学 教授 半田裕一 hirokazu@kpu.ac.jp 准教授 大坪憲弘 nohtsubo@kpu.ac.jp	人口増加や気候変動に対応した食料生産に貢献する作物の遺伝的改良を目指して、ムギ等を材料にゲノムや遺伝子情報を利用した遺伝育種的研究を行うほか、ゲノム編集等による新たな花色・草姿の作出と有用形質の実用化研究に取り組んでいる。 ●ゲノム情報を利用したムギ類の有用形質遺伝子の機能解明 ●ムギ類のゲノム構造とゲノムの機能分化に関する研究 ●分子育種技術を利用した作物の効率的な形質改変の研究 ●分子育種技術の実用化にかかる周辺技術の開発 ●植物の成長・増殖や物質生産に繋がる新たな技術の開発
野菜花卉園芸学 教授 西島隆明 takaaki@kpu.ac.jp 講師 伊達修一 s_date@kpu.ac.jp	高品質な野菜・花卉を安定して生産するために必要な種々の形質について、発現機構を解明し、それに基づく先進的な品種ならびに育種・栽培技術の開発を行っている。 ●栄養繁殖性野菜の交雑育種技術の開発と新品種の育成 ●野菜の品質形成機構の解明と高品質品種の育成 ●花卉の観賞性関連形質の分子機構解明と新品種の育成 ●不定芽を利用した高効率な栄養繁殖技術の開発 ●植物工場技術を利用した新しい野菜の開発 ●地域特産野菜・花卉の開発
果樹園芸学 教授 板井章浩 itai@kpu.ac.jp 講師 森本拓也 morimoto@kpu.ac.jp	果樹・資源植物の遺伝資源の収集と保存・評価し、それらを利用して、高品質新品種開発と生産技術、ポストハーベスト技術開発を行っている。 ●京果樹ブランドの創成 ●分子マーカーを利用した果樹育種の効率化 ●果樹・資源植物の生理現象の解明と栽培技術への応用 ●生殖機構、特に自家不和合性と種間障壁の遺伝・生理学的解析 ●異種間交雑技術を用いたハイブリッド果樹の作出とその利用 ●果樹類の効率的繁殖法の確立
細胞工学 教授 久保中央 nkubo@kpu.ac.jp 准教授 武田征士 seijitakeda@kpu.ac.jp	高等植物など生物の機能を、遺伝子・細胞・組織レベルで解明し、高品質な農作物作出の技術を開発することを研究目標としている。 ●連鎖解析を用いた栽培植物のゲノム構造と遺伝的多様性解明 ●農作物の病害抵抗性や食味・色など、有用形質の分子機構の解明 ●花や虫こぶなどの器官形成を担う分子機構の解明 ●自然栽培と食用昆虫による環境循環アグリシステムの構築 ●野生絶滅危惧植物の遺伝的多様性と生物多様性の保全

※ ○を@に変えたものがメールアドレスになります。以下同様。

<p>農業生態学 准教授 大迫敬義 ohsako○kpu.ac.jp 准教授 アンドレ・フレイリ・クルス andre○kpu.ac.jp</p>	<p>持続的・安定的な農業生産体系の実現を目標として、微生物学、集団遺伝学などの手法により土壌生態系の評価や作物の遺伝的改良の基盤としての植物の多様性・進化の解明を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●土壌微生物群集のメタゲノム解析による調査 ●持続農業に焦点を当てた土壌システムのマネジメント ●作物ならびに近縁野生種の進化遺伝学的解析 ●絶滅危惧種ならびに耕地雑草の生態遺伝学
<p>農業経営学 准教授 中村貴子 taka○kpu.ac.jp</p>	<p>洪水防止や新鮮な大気・水の涵養などによる環境保全機能を評価し、美しい農村景観や農業を体験するグリーンツーリズムや農業を使わない環境に優しい農業について研究している。また、農地などの地域資源の利用と保全のシステム、京野菜による地域農業振興、コミュニティビジネスなどによる地域活性化について研究している。環境保全型農業や農業経営に関する研究成果は、国や府県の農業政策に活かされている。</p>
<p>応用昆虫学 教授 中尾史郎 nakao○kpu.ac.jp</p>	<p>昆虫の分類、生理生態・適応進化について追究し、農業害虫の防除法や生産環境の整備方策への反映を通じた昆虫多様性の保全に資する研究を行なっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●農業害虫とその天敵、ならびに絶滅危惧種の生理生態解明と分類 ●昆虫の季節適応および表現型多型と生活史進化との関係解明 ●天敵昆虫の機能利用による農業害虫に対する生物的防除技術の開発 ●昆虫の個体群管理に資する生物地理学・生態遺伝学・行動学的研究
<p>昆虫情報学 教授 大島一正 issei○kpu.ac.jp</p>	<p>未知の昆虫を探し命名する分類学、進化史を推定する系統学、これらをもとに分類体系を構築する体系学、そして昆虫の知られざる生き様を解明する生態学や行動学に基盤を置きながら、遺伝子やゲノムの情報なども用いることで、昆虫の多様性とその進化機構の解明に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●昆虫における種分化のメカニズムとプロセス ●植食性昆虫における寄主適応の遺伝基盤 ●主に鱗翅目昆虫を対象とした体系学 ●植食性昆虫とその天敵の間で見られる種間相互作用
<p>土壌学 教授 矢内純太 yanai○kpu.ac.jp 准教授 中尾 淳 na_4_ka_triplochiton ○kpu.ac.jp</p>	<p>土壌の機能を化学的に解明し、その応用によって地球環境の保全と持続的農業の可能性を探ることを目的に、土壌の肥沃度評価や土壌粘土の特性評価等について教育研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●土壌の肥沃度評価と土壌養分供給機構の解析 ●熱帯・温帯における土壌有機物蓄積機構の解明 ●鉱物風化のしくみの解明と新しい価値の創出 ●作物を放射能から守る雲母の機能の解明
<p>栄養科学 教授 桑波田雅士 kuwahata○kpu.ac.jp 准教授 青井 涉 waoi○kpu.ac.jp 講師 小林ゆき子 yukicoba○kpu.ac.jp</p>	<p>ヒト栄養管理への応用を目標とした基礎研究、応用研究を行うとともに、患者を対象とした臨床栄養学研究にも取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新規栄養評価マーカーの探索と有効性の評価に関する基礎研究 ●栄養製品の応用開発を目標とした機能性栄養成分に関する研究 ●体力向上を目的とした運動栄養学的研究 ●各種疾患患者を対象とした調査、介入研究
<p>食品科学 教授 長井 薫 k-nagai○kpu.ac.jp</p>	<p>食品による疾患予防を目的として、特に、脳の機能の改善を目指した有効物質の探索およびメカニズムの解明に関する研究を行っている。また、食品のテクスチャと組織構造との関係、食品の加工・貯蔵中における粘</p>

<p>講師 田代有里 ytashiro○kpu.ac.jp</p>	<p>弾性変化、食品を構成している生体高分子の性質、を解明する食品物性に関する研究を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●食品成分による生体内ストレス抑制を介した健康効果の研究 ●食品成分によるエピジェネティクス制御を介した健康効果の研究 ●食品のレオロジー的性質と組織構造との関係 ●食品を構成する生体高分子の溶液物性
<p>食環境安全性学 准教授 岡 真優子 mayuko-oka○kpu.ac.jp</p>	<p>食生活環境における病原性微生物がヒトに与える影響を細菌学のおよび免疫学的に捉えて、感染症の発症と予防に関する研究に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●免疫細胞と細菌の相互作用に関する研究 ●細菌感染とがんやアレルギーに関する研究 ●天然植物からの抗菌物質の探索と作用機序に関する研究
<p>食事科学 准教授 吉本優子 yoshimoto○kpu.ac.jp 講師 村元由佳利 muramoto○kpu.ac.jp</p>	<p>食べるという食物摂取段階に関わる様々な課題について、自然科学的な視点だけでなく、社会科学的な視点も加えた研究を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●食育プログラムの開発と評価 (食の防災教育、食品ロス削減教育、外国人高齢者への食支援など) ●ICT(情報通信技術)と栄養教育 (画像による食品重量の見積もり学習、シミュレーション学習) ●植物性食品の調理科学的特性とおいしさ(えびいも、くずでんぷんなど) ●給食施設における衛生管理
<p>健康科学 教授 奥田奈賀子 nokuda○kpu.ac.jp 准教授 長幡友実 nagahata○kpu.ac.jp 講師 谷口祐一 hiroказu-t○kpu.ac.jp</p>	<p>超高齢化社会にあって、循環器病を中心とした疾病を効果的に予防するための知見の構築を目指して、さまざまな集団を対象とした公衆栄養、栄養疫学、および運動栄養学的研究を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●栄養介入による高血圧予防手法の開発と効果検証 ●効果的な保健指導手法の検討と特定保健指導の効果評価 ●遺伝的要因や社会経済的要因が食事摂取量に及ぼす影響についての研究 ●持久性運動や食事が熱産生ホルモン分泌及び褐色脂肪活性に及ぼす効果の検証
<p>遺伝子工学 教授 増村威宏 masumura○kpu.ac.jp 准教授 森田重人 s_morita○kpu.ac.jp 講師 佐藤壮一郎 s-satoh○kpu.ac.jp</p>	<p>植物(農作物)の高品質化や生産性の向上、有用物質の生産を目的として、これら過程の分子機構の解明、および有用遺伝子組換え作物の開発に関する研究をおこなっている。また、植物ゲノムの構造・機能・進化原理の解明、および遺伝子やゲノムの操作技術の開発を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●植物の発芽調節、伸長調節の分子機構の解析 ●有用遺伝子組換え作物の作出、解析 ●DNA修復やエピゲノムの変動による植物トランスクリプトームの進化メカニズムの解析 ●ゲノム・メタゲノムベースの分子系統解析方法の開発と応用
<p>植物病理学 教授 津下誠治 s_tsuge○kpu.ac.jp 講師 辻 元人 gnosjiutte○kpu.ac.jp</p>	<p>植物病原微生物の生理生態や感染機構、植物の抵抗性機構、防除資材の作用機序等の解析を通じて、病原微生物の病原性の制御や植物への抵抗性の付与、新規植物病害防除技術の開発など、植物保護に向けた教育研究を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●植物病原微生物の病原性遺伝子の機能解析とその発現制御機構の解明 ●植物病原微生物の生態特性の解析 ●植物の病害抵抗性の遺伝的解析 ●有用微生物や資材による発病抑制の作用機序の解析

<p>植物分子生物学 教授 佐藤雅彦 mhsato@kpu.ac.jp 准教授 平野朋子 thirano@kpu.ac.jp 講師 山下博史 yamasita@kpu.ac.jp 講師 爲重 才覚 t-tamesige@kpu.ac.jp</p>	<p>地球生態系の土台を構成する植物の機能発現、および環境との相互作用について遺伝子や細胞レベルでの研究を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●植物細胞の細胞内タンパク質輸送メカニズムの解明 ●植物形態形成におけるリン脂質シグナリング因子の解析 ●環境応答に関与する転写因子の解析 ●昆虫と植物の相互作用による植物形態制御機構の解明 ●膜タンパク質輸送制御技術による重金属浄化植物の開発
<p>植物ゲノム情報学 教授 福島敦史 afukushima@kpu.ac.jp</p>	<p>植物ゲノム、エピゲノム、トランスクリプトームなど大規模かつ多様なデータの統合的なバイオインフォマティクス解析手法の研究開発、AI時代の持続的なデータ共有および関連するデータベースの研究開発を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●植物特化代謝パスウェイマップ整備とエンリッチメント解析手法の開発 ●植物ストレス応答遺伝子群の同定とデータベース開発
<p>植物成分化学 教授 川田俊成 kawada@kpu.ac.jp</p>	<p>植物成分を両端点とする化学合成、植物成分分析などを基盤とする情報伝達物質の構造活性相関、糖鎖の機能発現機構などに関する有機化学寄りの分子生物学的研究など。例えば、植物防御反応のエリター活性が期待できるオリゴ糖類の構造活性相関研究、薬理活性を有する植物抽出成分の化学合成・構造決定・機能賦与研究、など。</p>
<p>分子栄養学 教授 亀井康富 kamei@kpu.ac.jp 准教授 佐伯 徹 tsaeki@kpu.ac.jp</p>	<p>栄養摂取に伴う生体機能調節の分子機構や、食品・栄養・健康の諸問題について研究を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●遺伝子改変マウスを用いた肥満・生活習慣病の分子機序解析 ●核内ホルモン受容体関連分子による遺伝子発現調節機構 ●疎水性胆汁酸による発がんプロモーター作用とアポトーシス誘導機構 ●生体内代謝物、薬品、あるいは環境ホルモン等の生体内動態の分子機構 (http://nutrition.life.kpu.ac.jp/参照)
<p>動物機能学 教授 岩崎有作 ysk-iwasaki@kpu.ac.jp</p>	<p>生体末梢情報(ホルモン、栄養成分、代謝物など)の一部は求心性迷走神経を介して脳機能を調節していると考えられるが、不明な点も多い。＜求心性迷走神経→脳＞軸を介した脳機能(食欲・代謝・精神)の調節機構と医学・栄養学的応用を研究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●過食・節食リズム異常による肥満の改善研究 ●インスリン抵抗性・糖尿病の改善研究 ●代謝低下・冷え性の改善研究 ●ストレス・抑うつ改善研究 ●食欲不振(高齢者を含む)の改善研究
<p>動物衛生学 准教授 宮崎孔志 miyazaki@kpu.ac.jp 〔学長 塚本康浩〕 〔ytsuka@kpu.ac.jp〕</p>	<p>家畜および実験動物を対象として、疾病の病理発生の解明やその診断法及び防御法の開発を目的とする実践的な動物バイオを展開する。また、多剤耐性菌の毒性産生だけを抑制する新しい治療薬の開発や微生物を活用した農畜産廃棄物のバイオエタノールや水素への生物変換について研究している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ダチョウを用いた診断薬・治療薬の開発 ●感染症や癌における細胞接着分子の機能解明と診断・治療への実用化 ●未利用資源のバイオエタノールや水素への変換 ●新たな多剤耐性菌治療薬の開発

<p>微生物機能化学</p> <p>講師 辻本善之 yoshi_t@kpu.ac.jp</p>	<p>自然界に生息する有用な機能を持つ微生物や発酵に関与する微生物に注目し、それらの機能解析を中心に研究を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●有用な酵素タンパク質を生産する微生物の単離と同定 ●脂質関連酵素の機能解析とその応用 ●機能性脂質の生理機能解析
<p>物質創成化学</p> <p>教授 椿一典 tsubaki@kpu.ac.jp</p> <p>教授 沼田宗典 numata@kpu.ac.jp</p> <p>准教授 斧田宏明 h-onoda@kpu.ac.jp</p> <p>助教 今吉亜由美 imayoshi@kpu.ac.jp</p>	<p>機能分子の設計・合成を通して生命化学を追及している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生体ポリアミンの高感度センサーの開発 ●大環状化合物をテンプレートとした機能性分子の開発 ●光学活性オリゴアール類の精密合成とその機能化 ●生理活性物質の作用機構を解明するための機能分子の創製 ●タンパク質の機能解析に応用する選択的阻害剤の開発 ●高選択的新規触媒反応の開発 ●機能性分子および高分子の合成とそれらの自己組織化による自律的機能をもつ次世代物質群の創製 ●刺激応答性を持つ分子ナノマシンの開発 ●光触媒活性をもたない化粧品用白色無機顔料の作製 ●有害重金属を含まない代替無機材料の開発
<p>機能創成化学</p> <p>教授 高野和文 takano@kpu.ac.jp</p> <p>准教授 安部聡 sabe@kpu.ac.jp</p> <p>准教授 田中俊一 stanaka1@kpu.ac.jp</p> <p>講師 佐野智 satsano@kpu.ac.jp</p>	<p>機能分子の理解・創成を通して生命化学を追及している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●タンパク質構造形成機構の解明と応用 ●タンパク質の分子進化機構の解明と応用 ●結晶成長機構の解析と応用 ●タンパク質結晶工学による機能材料開発 ●タンパク質の自己組織化による超分子タンパク質の機能創製 ●人工結合タンパク質の設計開発とケミカルバイオロジーへの応用 ●産業有用酵素の構造機能相関解析と高機能化 ●新規オリゴ糖プレバイオティクスの創成 ●植物の環境ストレス耐性に関与する酵素の機能解析 ●植物の青色銅タンパク質の機能解析
<p>システム創成化学</p> <p>教授 杉本健士 ksugimoto@kpu.ac.jp</p> <p>教授 堀内宏明 horiuchi@kpu.ac.jp</p> <p>教授 織田昌幸 oda@kpu.ac.jp</p> <p>教授 久保拓也 tkubo@kpu.ac.jp</p> <p>准教授 リントウルオト正美 masami@kpu.ac.jp</p>	<p>物理化学や分析化学手法を用いて系統的に生命化学を追及している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●微量で生物活性を示す天然・非天然有機小分子の精密構築法の創成と医薬化学的応用・生体内挙動の解析 ●薬品分子の母格となる含窒素複素環化合物の精密構築法の創成と医薬化学的応用・生体内挙動の解析 ●光を利用したがん治療・診断に用いる光感受性薬剤の光機能向上および光機能制御を目指した研究 ●抗体の抗原認識と構造変化の解析 ●T細胞活性化に働くシグナル伝達分子の相互作用解析 ●転写因子 DNA 結合ドメインの構造機能解析 ●グルカナーゼやクチナーゼなど酵素の構造機能解析 ●人工タンパク質の設計と構造機能解析 ●分子・情報技術の創発による微弱分子間相互作用の解明 ●液相分離の高度化に向けた有機無機複合材料の開発 ●人工分子認識材料による生体・環境分析の効率化 ●高選択・高速分離に基づく多様な創薬モダリティの精製 ●計算化学を用いたタンパク質の機能と構造の関連性や酵素反応メカニズムの解明

[環境科学専攻]

環境科学専攻の教育・研究の基本理念は、人々の生活が、地球規模に至る自然環境の中で成り立っているという認識に基づき、身近な生活環境から自然の生態系まで、空間スケールは異なるが有機的につながった系である環境の保全によって持続的な社会の構築に寄与することにあります。本専攻は、森林、山地防災、木材資源、ランドスケープ、都市計画、建築、住居、室内環境、情報科学、数理科学、物理学などを専門とする教員からなり、人間を取り巻く多様な環境要素および、人間と環境の様々な相互関係を探求できるユニークな構成となっています。教育目標は、基本理念に立脚して、森林科学、生活環境科学、数物・情報環境学の高度な専門知識を備え、広い視野と応用力を身につけた人材を養成することです。

研究室の教員と研究内容

専門種目と教員氏名(※1)	教育研究概要(●以下は主要な研究テーマ)
<p>森林生態学</p> <p>教授 隅田明洋※2 asumida@kpu.ac.jp</p> <p>教授 宮藤久士 miyafuji@kpu.ac.jp</p> <p>准教授 上田正文 uedam@kpu.ac.jp</p> <p>准教授 平山貴美子 hirara@kpu.ac.jp</p> <p>講師 佐々木尚子 sasaki_n@kpu.ac.jp</p> <p>助教 糟谷信彦 n_kasuya@kpu.ac.jp</p>	<p>森林生態系を構成する多様な生物と環境との密接な繋がり、物質・エネルギー循環のシステムを科学的に理解し、持続可能な社会の構築に向けた健全な森林生態系の維持、森林資源の循環的利用に関する教育・研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●森林の発達と維持のメカニズムに関する生態学的研究(隅田) ●森林および竹林バイオマスからのエネルギー生産および有用化学物質の創製(宮藤) ●森林バイオマスからの高機能材料(宮藤) ●樹木の生態・健康度および水分生理に関する研究(上田) ●森林の衰退原因の解明とその回復についての研究(上田) ●都市近郊林の生物多様性保全に向けた生物間相互作用ネットワークの解明(平山) ●暖温帯林構成種の種子生産変動と更新動態の解明(平山) ●東アジアにおける気候変動および人間活動と植生変遷の関係(佐々木) ●植生と景観形成に及ぼした野火の影響(佐々木) ●地域単位での森林および竹林バイオマスの生産量・蓄積量の把握(糟谷) ●国産早生樹の成長量評価と用途開発(宮藤、糟谷)

※1 ○を@に変えたものがメールアドレスになります。以下同様。

※2 2025年(令和7年)3月退職予定

<p>流域保全学</p> <p>教授 長島啓子 nagakei○kpu.ac.jp</p> <p>教授 美濃羽靖 sharmy○kpu.ac.jp</p> <p>教授 勝山正則 katsu○kpu.ac.jp</p> <p>准教授 高濱淳一郎 jtaka○kpu.ac.jp</p> <p>准教授 三好岩生 i_miyosi○kpu.ac.jp</p> <p>准教授 中田康隆 nakata-yasutaka○kpu.ac.jp</p>	<p>山地の基本単位である流域について、地形、水系、森林資源、生物多様性といった様々な流域情報の収集・解析、土砂災害や病虫獣害被害などの森林災害の予測・軽減、さらに京都の自然および都市の歴史的景観保全や管理など、循環型社会の構築に資する教育・研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●GIS・リモートセンシング技術を応用した地域森林資源の評価と生物多様性の保全(長島、中田) ●獣害・土砂災害・病害虫等の森林攪乱後の自然再生(長島、中田) ●流域内における降雨流出応答と水質との関係(美濃羽) ●IT 技術を応用した流域情報に関する情報発信・携帯端末を用いたアプリケーションの開発、森林内の音場環境の解析(美濃羽) ●トレーサーを用いた森林流域の水循環機構の解明(勝山) ●長期モニタリングによる森林生態系の変化に対する流出水質の応答解明(勝山) ●山地流域からの水・土砂流出特性(高濱、三好) ●土石流・崩壊等の土砂災害の発生機構(高濱、三好) ●荒廃山地の緑化と森林保全(三好) ●地域資源を活かした地域防災システム(三好)
<p>森林資源学</p> <p>教授 古田裕三 furuta○kpu.ac.jp</p> <p>准教授 神代圭輔 kojiro○kpu.ac.jp</p> <p>准教授 辻山彰一 s_tsuji○kpu.ac.jp</p> <p>准教授 細谷隆史 hosoya_t○kpu.ac.jp</p>	<p>地域から地球規模にまでつながった循環型社会の構築に向けて、再生産可能資源である木質バイオマス資源に関する物性学、化学を基礎・基盤として、バイオマス変換利用およびバイオマテリアルの利活用・創成に関する先端的な教育・研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新規木質材料開発のための基礎的研究(古田、神代) ●木材の物性発現機構の解明(古田、神代) ●地域材の有効利用に関する研究(古田、神代) ●木質系材料の標準化(古田、神代) ●きのこ及びその酵素に関する応用研究、木質成分利用に関する研究(辻山) ●木材およびその構成成分の化学分解法とその分子機構に関する研究(細谷)
<p>住環境文化学</p> <p>教授 檜谷美恵子* hinokidani○kpu.ac.jp</p> <p>教授 山川 肇 yamakawa○kpu.ac.jp</p> <p>准教授 松田法子 matsuda○kpu.ac.jp</p> <p>准教授 関口達也 ta-sekiguchi○kpu.ac.jp</p> <p>講師 辻慎一郎 tsujis○kpu.ac.jp</p>	<p>住環境の歴史・文化と住環境を取り巻く生活の諸課題に関する教育・研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●住まいや生活様式に関わる実証的研究ならびに住生活の向上に寄与する制度や居住政策に関する研究を行う。 ●環境配慮型生活行動の評価と促進に関する研究等、持続可能な循環型社会の形成に貢献するライフスタイルと政策に関する研究を行う。 ●都市・地域・建築に関する生活文化論的・史学的・美学的研究を行う。 ●都市計画、都市現象、都市政策に関する研究を行う。 ●住居建築史に関する研究を行う。

※ 2025 年（令和 7 年）3 月退職予定

<p>住環境計画学</p> <p>教授 河西立雄* kawanish○kpu.ac.jp</p> <p>教授 河合慎介 s_kawai○kpu.ac.jp</p> <p>教授 鈴木健二 suzuki○kpu.ac.jp</p> <p>准教授 奥矢 恵 okuya○kpu.ac.jp</p> <p>准教授 森田一弥 morita○kpu.ac.jp</p>	<p>都市・建築・インテリア・生活用品の計画・設計に関する教育・研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●建築デザインを軸として、インテリアデザイン、ランドスケープデザインなど、内部から外部までの空間を一体的な環境として捉え、具体的な設計を通して新しい空間やデザインの手法を提案する。 ●都市・インテリアを含む総合的な生活空間を視野に入れ、住み手・使い手の立場に立った建築計画および建築のデザインのあり方を深める研究を行う。 ●高齢者を中心とした居住施設・福祉施設の計画に関する研究を行う。 ●建築・インテリア空間の意匠に表れる地域性や時間性に関する研究、小屋・付属屋に関する建築史・意匠研究を行う。 ●空間のデザイン手法に関する研究を行う。
<p>住環境機構学</p> <p>教授 長野和雄 nagano○kpu.ac.jp</p> <p>教授 田淵敦士 a-tabuchi○kpu.ac.jp</p> <p>教授 福井 亘 wfukui○kpu.ac.jp</p> <p>准教授 石川敦雄 ishikawa○kpu.ac.jp</p> <p>准教授 荒木裕子 arakiy○kpu.ac.jp</p>	<p>住環境の安全性・快適性・持続可能性の機構に関する教育・研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●居住者と建築・都市生活環境のより良好な関係をめざして、生気候学、生活環境・設備計画学、人体熱収支理論を基に研究を行う。 ●木質材料の特性を活用し建築や住宅の耐震性能を向上させるための研究を行う。 ●都市や近郊を対象に緑地計画と景観生態に関する研究やデザイン提案を行う。 ●居住者と建築・都市環境との相互作用を対象として、環境心理学を基により良い視環境のあり方を深める研究を行う。 ●住環境防災学に関する研究を行う。
<p>環境応用情報学</p> <p>教授 田伏正佳* tabuse○kpu.ac.jp</p> <p>教授 浅田太郎 t_asada○kpu.ac.jp</p>	<p>メディア情報処理、人工知能、数理計画、データサイエンスなどの基礎研究を行い、ネットパトロールシステム、ロボット、認知症・高齢者の支援のための情報システム、情報セキュリティ、表情、音声、動作の情報解析、福祉情報システム、意思決定支援システム、ヒューマンインタフェース、などへの応用研究を行う。</p>
<p>環境応用数理学</p> <p>准教授 岩崎雅史 imasa○kpu.ac.jp</p> <p>講師 西田優樹 y-nishida○kpu.ac.jp</p>	<p>可積分系理論を中心とした数学的な基礎研究によって、身近に潜む数理構造の解明を進めながら、様々な新しいアルゴリズムの定式化やアルゴリズムの実用化研究(データサイエンス研究)もあわせて行っている。また、離散数学を基礎にした数理モデルや数理最適化による問題解決、および関連する代数構造について研究を行っている。</p>
<p>環境計測学</p> <p>准教授 安田啓介 yasuda○kpu.ac.jp</p> <p>講師 関原隆泰 sekihara○kpu.ac.jp</p>	<p>加速器や X 線などの量子ビームを用いた分析に関する先端計測技術の開発、およびこれらの分析技術を用いた環境中やエネルギー材料の微量元素の分布や動態の解明に関する研究を行っている。また、原子核を舞台に展開される素粒子「クォーク」のダイナミクスを、特に核力とその一般化という観点から、量子力学の数値計算を通じて研究している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●イオンビームを用いた薄膜中の軽元素分析技術の開発 ●イオンビーム分析技術を駆使したリチウムイオン二次電池等のエネルギー材料における軽元素の動態に関する研究 ●原子核におけるクォークのダイナミクスの発現に関する理論研究 ●核力に関する各種実験データに対応する数値計算

※ 2025 年（令和 7 年）3 月退職予定

授 業 科 目

[応用生命科学専攻] 博士前期課程

植物遺伝育種学特論	2 単位
分子育種学特論	2
野菜花卉園芸学特論	2
野菜花卉品質論	2
持続型果樹栽培論	2
常緑果樹論	2
植物分子細胞遺伝学特論	2
植物病害管理学特論	2
資源植物生産科学	2
農業生態学特論	2
農業経営学特論	2
農業経済学特論	2
応用昆虫学特論	2
昆虫系統分類学	2
環境共生システム学特論	2
臨床栄養学特論	2
栄養科学特論	2
食品機能学特論	2
食品科学特論	2
食環境安全性学特論	2
生体防御機能学特論	2
食事科学特論	2
調理科学特論	2
栄養疫学特論	2
健康科学特論	2
学校栄養教育特論	2
食教育実践演習	2
食環境科学特別講義	2
遺伝子工学特論	2
分子遺伝学特論	2
植物病理学特論	2
植物分子生理学特論	2
植物細胞生物学特論	2
植物ゲノム情報学特論	2
植物成分化学特論	2
分子栄養情報学特論	2
分子栄養学特論	2
動物機能学特論 I	2
動物機能学特論 II	2
動物衛生学特論 I	2
動物衛生学特論 II	2
機能分子合成化学特論	2
分子環境設計化学特論	2
機能分子設計化学特論	2
生命構造化学特論	2
細胞情報化学特論	2
生命物理化学特論	2
土壌機能化学特論	2
土壌分析化学特論	2

高次細胞機能化学特論	2 単位
反応生化学特論	2
微生物機能化学特論	2
無機材料化学特論	2
機能材料設計学特論	2
量子化学特論	2
食農生態論	2
食農技術論	2
生命反応化学特論	2
植物バイオテクノロジー特論	2
バイオビジネス論	2
英語コミュニケーション演習 I	2
英語コミュニケーション演習 II	2
英語コミュニケーション演習 III	2
環境論	2
植物育種学演習	4
植物育種学実験	12
野菜花卉園芸学演習	4
野菜花卉園芸学実験	12
果樹園芸学演習	4
果樹園芸学実験	12
細胞工学演習	4
細胞工学実験	12
農業生態学演習	4
農業生態学実験	12
農業経営学演習	4
農業経営学実験	12
応用昆虫学演習	4
応用昆虫学実験	12
昆虫情報学演習	4
昆虫情報学実験	12
土壌学演習	4
土壌学実験	12
栄養科学演習	4
栄養科学実験	12
食品科学演習	4
食品科学実験	12
食環境安全性学演習	4
食環境安全性学実験	12
食事科学演習	4
食事科学実験	12
健康科学演習	4
健康科学実験	12
遺伝子工学演習	4
遺伝子工学実験	12
植物病理学演習	4
植物病理学実験	12
植物分子生物学演習	4

植物分子生物学実験	12 単位
植物ゲノム情報学演習	4
植物ゲノム情報学実験	12
植物成分化学演習	4
植物成分化学実験	12
分子栄養学演習	4
分子栄養学実験	12
動物機能学演習	4
動物機能学実験	12
動物衛生学演習	4
動物衛生学実験	12
機能分子合成化学演習	4
機能分子合成化学実験	12
機能分子設計化学演習	4
機能分子設計化学実験	12
生命構造化学演習	4
生命構造化学実験	12

生命物理化学演習	4 単位
生命物理化学実験	12
高次細胞機能化学演習	4
高次細胞機能化学実験	12
微生物機能化学演習	4
微生物機能化学実験	12
材料設計学演習	4
材料設計学実験	12

[応用生命科学専攻] 博士後期課程

植物育種学特別研究	4 単位
植物育種学特別演習	4
野菜花卉園芸学特別研究	4
野菜花卉園芸学特別演習	4
果樹園芸学特別研究	4
果樹園芸学特別演習	4
細胞工学特別研究	4
細胞工学特別演習	4
農業生態学特別研究	4
農業生態学特別演習	4
農業経営学特別研究	4
農業経営学特別演習	4
応用昆虫学特別研究	4
応用昆虫学特別演習	4
昆虫情報学特別研究	4
昆虫情報学特別演習	4
土壌学特別研究	4
土壌学特別演習	4
栄養科学特別研究	4
栄養科学特別演習	4
食品科学特別研究	4
食品科学特別演習	4
食環境安全性学特別研究	4
食環境安全性学特別演習	4
食事科学特別研究	4
食事科学特別演習	4
健康科学特別研究	4
健康科学特別演習	4
遺伝子工学特別研究	4
遺伝子工学特別演習	4
植物病理学特別研究	4
植物病理学特別演習	4

植物分子生物学特別研究	4 単位
植物分子生物学特別演習	4
植物ゲノム情報学特別研究	4
植物ゲノム情報学特別演習	4
植物成分化学特別研究	4
植物成分化学特別演習	4
分子栄養学特別研究	4
分子栄養学特別演習	4
動物機能学特別研究	4
動物機能学特別演習	4
動物衛生学特別研究	4
動物衛生学特別演習	4
機能分子合成化学特別研究	4
機能分子合成化学特別演習	4
機能分子設計化学特別研究	4
機能分子設計化学特別演習	4
生命構造化学特別研究	4
生命構造化学特別演習	4
生命物理化学特別研究	4
生命物理化学特別演習	4
高次細胞機能化学特別研究	4
高次細胞機能化学特別演習	4
微生物機能化学特別研究	4
微生物機能化学特別演習	4
材料設計学特別研究	4
材料設計学特別演習	4

[環境科学専攻] 博士前期課程

空間計画学特論	2 単位
環境設計学特論	2
環境共生学特論	2
環境情報・数物化学特論	2
環境論	2
環境実験法特論	2
環境調査法特論	2
科学英語演習	2
森林生態学特論	2
森林生態学演習	4
森林生態学実験	10
森林生理生態学特論	2
森林生理生態学演習	4
森林生理生態学実験	10
森林植生学特論	2
植生環境学特論	2
森林植生学演習	4
森林植生学実験	10
森林資源循環学特論	2
森林資源循環学演習	4
森林資源循環学実験	10
森林計画学特論	2
森林計測学特論	2
森林計画学演習	4
森林計画学実験	10
山地防災学特論	2
山地防災学演習	4
山地防災学実験	10
砂防学特論	2
土砂移動現象論特論	2
砂防学演習	4
砂防学実験	10
流域情報学特論	2
流域情報学演習	4
流域情報学実験	10
生物材料物性学特論	2
木質工学特論	2
生物材料物性学演習	4
生物材料物性学実験	10
木質資源化学特論	2
木質資源化学演習	4
木質資源化学実験	10
生物材料利用化学特論	2
生物材料利用化学演習	4
生物材料利用化学実験	10

生活環境科学演習	2 単位
住居建築史学特論	1
都市計画学特論	1
住生活学特論	1
循環型社会論特論	1
生活文化論特論	1
住環境文化学演習	4
住環境文化学実験	10
建築意匠学特論	1
建築計画学特論	1
居住福祉計画学特論	1
インテリア意匠学特論	1
インテリア計画学特論	1
住環境計画学演習	4
住環境計画学実験	10
生活環境・設備計画特論	1
視環境計画学特論	1
木質構造学特論	1
住環境防災学特論	1
地域景観保全特論	1
住環境機構学演習	4
住環境機構学実験	10
環境数理計画特論	2
人間環境画像解析特論	2
応用人工知能特論	2
生活福祉情報学特論	2
環境応用情報学演習	4
環境応用情報学実験	10
応用数理解析特論	2
環境数値解析特論	2
環境応用数学演習	4
環境応用数学実験	10
環境計測学特論	2
放射線計測学特論	2
応用原子物理学特論	2
環境計測学演習	4
環境計測学実験	10

[環境科学専攻] 博士後期課程

森林生態学特別研究	4 単位
森林生態学特別演習	4
森林生理生態学特別研究	4
森林生理生態学特別演習	4
森林植生学特別研究	4
森林植生学特別演習	4
森林計画学特別研究	4
森林計画学特別演習	4
山地防災学特別研究	4
山地防災学特別演習	4
流域情報学特別研究	4
流域情報学特別演習	4
森林資源循環学特別研究	4
森林資源循環学特別演習	4
生物材料物性学特別研究	4
生物材料物性学特別演習	4
生物材料利用化学特別研究	4
生物材料利用化学特別演習	4

住環境文化学特別研究	4 単位
住環境文化学特別演習	4
住環境計画学特別研究	4
住環境計画学特別演習	4
住環境機構学特別研究	4
住環境機構学特別演習	4
環境応用情報学特別研究	4
環境応用情報学特別演習	4
環境応用数学特別研究	4
環境応用数学特別演習	4
環境計測学特別研究	4
環境計測学特別演習	4

出願書類関係

出願必要書類一覧

研究計画書（公共政策学研究科用）

学業専念承諾書（博士前期課程の社会人受験志願者用）

※文学研究科・生命環境科学研究科のみ

学業承諾書（生命環境科学研究科用）

※博士前期・後期課程の勤務内定者のみ

出願必要書類一覧

必要書類	注意事項	生命環境科学研究科							
		応用生命科学専攻				環境科学専攻			
		博士前期		博士後期	博士前期		博士後期		
		(夏期)	(冬期)	(冬期)	(夏期)	(冬期)	(夏期)	(冬期)	
入学願書	生年月日欄は西暦表記で記入すること。 写真2枚を貼付のこと。	○	○	○	○	○	○	○	
入学審査料	30,000円 本学所定の「入学審査料振込依頼書」により、銀行または信用金庫等の金融機関から振り込むこと。[ゆうちょ銀行(郵便局)からの振込不可] 本学博士前期修了予定で博士後期出願者(内部進学者)は不要	○	○	○	○	○	○	○	
卒業(見込)証明書 または 修了(見込)証明書 及び 成績証明書	出身大学または専修学校のもの	○	○	×	○	○	×	×	
修了(見込)証明書 及び 成績証明書	出身大学院のもの	×	×	○	×	×	○	○	
研究計画書	A4用紙で3,000字程度	×	×	○	×	×	○	○	
研究内容の概要	A4用紙で3,000字程度	×	×	○	×	×	○	○	
志望理由書	A4用紙で1,200字程度 1頁以内	○	○	×	○	○	×	×	
TOEICの公式認定書	原本を提出すること。	○	○	×	○	○	×	×	
	他大学大学院からの博士後期課程の志願者で、栄養科学、食品科学、食環境安全性学、食事科学、健康科学、分子栄養学、動物機能学、動物衛生学の専門種目を志望する者	/		○	/				
	森林科学及び生活環境科学出題分野の社会人受験志願者	/			×	×	×	×	
	数物・情報環境学出題分野の社会人受験志願者	/			○	○	×	×	
入試関係 返信用封筒	郵便番号・住所・氏名を明記し、 切手434円※分貼付すること。 * 本学指定のものを使用	○	○	○	○	○	○	○	
連絡用宛名シール	郵便番号・住所・氏名を明記すること。 * 本学指定のものを使用	○	○	○	○	○	○	○	
学業専念承諾書	企業等に勤務している者のみ提出すること。 * 入学手続き時に提出	○	○	×	○	○	×	×	
学業承諾書	勤務内定者のみ提出すること。 * 入学手続き時に提出	○	○	○	○	○	○	○	
研究業績 又は 業務報告	社会人受験志願者のみ提出すること。	○	○	○	○	○	○	○	

※定形郵便物(25gまで)料金を簡易書留料金を加えた料金。料金が改定された場合は、改定後の料金で、準備してください。

学 業 専 念 承 諾 書

(合格者) 勤務先 _____

職 名 _____

氏 名 _____

受験番号	
------	--

上記の者は、京都府立大学大学院生命環境科学研究科
専攻博士前期課程に入学後は、貴大学院学則を
守り学業に専念することを承諾いたします。

令和 年 月 日

京都府立大学大学院生命環境科学研究科長 様

勤 務 先 名 称

代表者又は所属の長
(職名・氏名)

印

学 業 承 諾 書

(受験者) 勤務内定先 _____

氏 名 _____

上記の者が、京都府立大学大学院生命環境科学研究科
専攻博士前期・後期課程に合格し、入学した後は、
※
勤務内定先の職員としての身分を有した上で、貴大学院学則
を守り学業を行うことを承諾いたします。

令和 年 月 日

京都府立大学大学院生命環境科学研究科長 様

勤務内定先名称

代表者又は所属の長
(職名・氏名)



※どちらかに○を付けてください。